

中央大学 文学部

文学部の研究目的は、人類がこれまでに生み出してきたさまざまな文化を総体的に学び、あらゆる面から「人間」の意味を追求していくことにあります。専門科目は学部全体で500を越え、豊かな知識と深い理解を育むことができます。



■大学生
印南夏子さん



■先生
松田美佐先生



■卒業生
新部真子さん

CONTENTS

- プロフィール
- 5年後に向けて
- 大学生活について
- 高校生へのアドバイス
- 就職活動、仕事について
- 大学構内のお気に入りスポット

●プロフィール

まずは、簡単に自己紹介をお願いします。



■大学生

文学部の4年生です。中央大学の文学部には13の専攻があって、国文学から外国語、歴史、教育学、心理学など幅広い分野が学べます。私は、メディアに関する勉強をしたいと思っていたので社会情報学専攻。もちろん、松田先生のFLP（ファカルティリンケージプログラム）ジャーナリズムプログラムもとっています。

■卒業生

私はドイツ語文学文化専攻でした。FLP ジャーナリズムプログラムは、私もとっていて、松田先生

にはお世話になりました。今の仕事は金融関係。本社で、システムに関する投資計画等の策定をしています。

■先生

社会情報学専攻の教員です。メディア論やコミュニケーション論が専門。コミュニケーション論と言っても、うまくコミュニケーションする方法を学ぶわけではありません。私自身は、たとえば携帯やインターネットが急激に普及したことで、社会のあり方がどう変わったのか、あるいは「うわさ」はどう広がり、人はどんな風に「うわさ」を信じるのか、といったことを研究しています。社会学をベースに社会と情報の関係を考えています。

お二人が話していた「FLP ジャーナリズムプログラム」とはなんですか？

■先生

FLP は、中央大学における学びの特徴のひとつでもあると思うのですが、学部を超えて履修できる実践的な教育プログラムです。現在、「環境プログラム」「ジャーナリズムプログラム」「国際協力プログラム」「スポーツ・健康科学プログラム」「地域・公共マネジメントプログラム」の5つがあり、ジャーナリズムプログラムのゼミ（演習）の一つを私が担当しています。

■卒業生

ゼミには、法学部や商学部など他のすべての学部の学生もいて、違う視点での議論ができるのは勉強になります。

■大学生

熱いゼミです。みんなよくしゃべりますし、議論も活発。ディベートでは見学に来た1年生が怖がるほど真剣にやっています。合宿もあるので、2年生から4年生までの3学年が参加していますが、みんな仲がよく、和気あいあいとした雰囲気もあります。

■卒業生

合宿は楽しかったですね。私の頃は、監視社会に関するDVDを見ようと言って、じゃ何を見ようかとみんなで集めたりしました。このとき東ドイツの監視社会と、いまの情報社会における監視社会の話にもなって、とても興味深かったことを覚えています。たとえばポイントカードは便利でお得だと、私たちは喜んでいますが、実は購買履歴や行動履歴などが筒抜けになっているわけで、監視されているのと同じかもしれないとか。

■大学生

なるほど。それ、確かにおもしろい。私たちの時には、合宿で取材活動をしました。

■先生

数年前から、夏の合宿は取材をするようになったのですが、書き上げた記事が産経新聞社が発行している「SANKEI EXPRESS（サンケイエクスプレス）」に掲載されることを目指しています。学生たち

が自ら取材先を決め、アポイントメントも自分たちで取ります。私はアドバイスはしますが、基本的には手を出さず見ているだけ。FLPは1年のときに、履修を希望する学生が応募し、選抜試験を受けて入ってきます。つまり意欲のある学生が集まるわけで、学生の自主性を重んじ、自分で考え、自分で判断・行動する力をのばそうと考えています。

■大学生

今回の合宿は石巻に行ったのですが、それも私たち学生が決めました。最初は皆で行きたいところを出し合って、その中から全員で話し合って決めた取材地です。

■先生

ですから、行く場所は毎回違います。去年は山梨で、おとしは沖縄でした。毎年、いろんなプランが出てきて、中には、観光に行きたいだけで提案しているだろうと思えるプランもあるのですが、議論のなかで、そういう案は自然と消えていきます。見ていておもしろいのは4年生のプランが2年生から問題意識が弱いとやり込められたりするところ（笑）。

■大学生

2年生も遠慮なく発言できるのは、このゼミの特徴だと思います。お互いに何でも言い合える環境ができています。私は今回、グループリーダーをやったのですが、メンバーの書いた記事をまとめ、SANKEI EXPRESSの担当者と打ち合わせながら、紙面を組み立てました。投稿しても掲載されるかどうかはわからないのですが、掲載されて本当によかったです。被災地への取材だったので、自分たちの努力を見て欲しいということよりも、そこにある問題をみなさんに知って欲しい、考えて欲しいという気持ちが強くありましたから。

ジャーナリストを目指す学生が集まっているのでしょうか？

■先生

いえ、そうではありません。もちろんジャーナリスト志望で、実際にマスコミに就職する人もいますが、ほとんどは違います。問題意識を持ち、幅広く調べてそれを人に伝えるためにまとめるという訓練をすることで、広い意味での考える力や、課題の発見と解決、問題整理力、発信力などが身に付きます。それらは、どんな仕事でも必要とされる力です。



■卒業生

私は、まったく違う金融関係の仕事をしていますが、文献を読む力や何かをまとめる力、自分の意見を伝える力など、松田先生のゼミを通して身につけたことが今の仕事に生かされていると思います。

■大学生

私もジャーナリズムを学んだおかげで、視野が広くなり、興味も広がりました。3年からは自分の専攻にこだわらず、社会学専攻のゼミと観光政策に関するゼミにも入りました。中央大学は、ほかの専

攻でもとることができる授業があるので、私のように入学してから興味が広がったり変わったりしても、ちゃんとそれが勉強できる環境があるのはいいですね。

●大学生活について

中央大学の良いところってなんでしょう。

■大学生

多摩キャンパスって都心から少し離れているので、東京の都会生活を希望している高校生には敬遠されがちなところがあります。でも実際には、学ぶフィールドはここだけではありません。自分でどんどん広げられる大学なんだということも高校生に言っておきたい。たとえばFLP ジャーナリズムプログラムで石巻に行ったのもそうですし、グローバル・スタディーズでは、ハワイに行きました。自分が積極的に行動すれば、学びの場はどんどん広がられます。建学の精神には「行動する知性。」を育むというメッセージがあるのですが、文字通りにそういうことを実践できる環境があり、行動する学生を応援してくれます。

■先生

グローバル・スタディーズは、文学部に新設されたばかりの授業で、国際的に活躍できる人材の養成や外国語運用能力を含めたコミュニケーション能力の向上を目的としています。実際に海外に行って、その国の文化や歴史に関して調査、研修を行ないます。その事前事後学習を含めて半年間のプログラムです。

■卒業生

「行動する知性。」につながることであると思うのですが、授業の選択が幅広くできるようになっていて、やる気があれば専門外の勉強もどんどんできるのは、中央大学のとてもいいところだと思います。たとえば、1～2年の時は共通科目で他専攻の授業も受けられます。3～4年で専門分野を中心に学ぶようになって「副専攻制度」があり、違う専攻の授業をとることもできます。学部の垣根を越えるFLPもありますし。

■先生

文学部には、自分が所属する専攻の専門分野の学びに加え、ひとつのテーマで専攻の垣根を超えて横断的に学べる「モデル履修制度」と、違う専攻の分野を系統的に学ぶことができる「副専攻制度」などがあり、同じ文学部の中の授業は、専攻が違って履修しやすい制度になっています。私自身も大学に入った段階では歴史を学びたいと思っていたのですが、いろいろ学んでいるうちに社会学をやりたいと思うようになった経験があります。社会学は高校の時にはない学問ですから、知らなくて当然です。一方、歴史は得意科目で好きでしたから、大学でもやりたいとシンプルに思っていたわけです。大学で新しいことを学び、知識が増えれば、学問への興味が変わるのはむしろ自然です。早くから専

門性を深めていくことも大切だとは思いますが、幅広い教養や知識を身につけることも、大学での学びとしてはとても重要です。多様な専門科目があり、それを専攻を超えて学ぶことができる環境は、中央大学の素晴らしいところだと私も思います。

多摩キャンパスの魅力を教えてください。

■卒業生

とにかくキャンパスが広いですからね。東京ドーム 11 個分。

■大学生

4 年目の今でも、キャンパスのすべてに行ったことがあるわけではありません。まだ未開の地があります（笑）。



■卒業生

山の上に行くと神社もあるし、馬もいる。

■大学生

ああ、馬術部の馬、かわいいですよ。キャンパスの中で乗馬のできる大学ってそうないのではないのでしょうか。4 年間同じキャンパスだから、部活の練習場などが、途中から遠くなったりしないのもいい。ほかの大学の話を聞くと、たいてい途中でキャンパスが変わるので、4 年間同じ部活やサークルで活動するのはそもそも難しいそうです。

■先生

FLP が 2 年、3 年、4 年と 3 学年を対象にできるのも、キャンパスが変わらないからこそかもしれませんね。

■大学生

ですから、先輩と後輩のつながりが濃いですよね。普通は、縦のつながりは、部活やサークルだけだと思うのですが、中央大学では FLP などの授業を通して関係ができる。これは、いろんな情報を得ることができるし、アドバイスもいただけるのでとてもありがたい。

大学生になって変わったこと、高校生の頃と違うことはなんですか？

■卒業生

勉強に対する視点というか、モチベーションでしょうか。ドイツ語のドの字も知らない状態で、ドイツ語文学文化専攻に入り、とても不安だったのですが、やはりドイツ語は最後まで苦手でした（笑）。でも、歴史の授業などで近代史を学ぶ中で、東ドイツの社会主義や監視社会に興味を持つようになりました。そもそも私が最初にドイツの歴史に触れたのは、ヒトラーの秘書が書いたという本。何をやっているかは全く知らずに仕えていたそうです。そこで、無知であることの怖さを知り、積極的に学ぼうという意識を持つようになりました。FLP ジャーナリズムプログラムで監視社会について学んで、

だんだん漠然としていたドイツへの興味の焦点があってきた。高校生の時に思っていたこととは全く違う視点ですが、勉強のモチベーションも高まった気がします。

■大学生

私も高校生の頃と比べると、興味の対象は広がりました。高校の頃以上に勉強したいという欲求は増えているように思います。

■先生

高校と大学の勉強の違いは、自主性ですね。大学では興味のある勉強をどんどん広げ、深めていくことができます。ただし、高校の時のように先生が面倒をみてはくれませんから、自分で進めていかなければならない。この2人は、アクティブですね。いろいろなことを自ら進んでやって、きっかけをたくさん作っています。大学では、自ら動かないとスタートしません。

■卒業生

中央大学は特にそうだと思うのですが、やりたい、勉強したいと言うとやらせてくれる環境があります。勉強に限らず、私は学園祭の運営に関わったり、「HAKUMON Chuo（白門中央）」という学生が作る大学広報誌の取材記事を書いたり、いろんなことをやってきました。大学では期待以上のことができたと思っています。

■先生

私がよく学生に言うのは、大学を使い倒せということ。大学には、学びのためのさまざまな施設や設備があり、学生の力になってくれる教職員がたくさんいます。行動しようとしている学生をサポートする体制は整っています。

●就職活動、仕事について

就職先はどんなところが多いですか？

■先生

文学部卒業生の就職先は、他学部に比べても幅広いと感じています。金融・保険、メーカー、卸・小売り、教育、マスコミ、公務員など多岐に渡ります。FLPの私のゼミからは、劇団四季のスタッフになった人や、音楽系の会社で法務関係を担当している人もいます。

■卒業生

新聞記者になって、震災の時に活躍していた人もいましたね。

■先生

新聞記者は最近でも何人かいますね。市役所で広報紙の編集を担当しているという人もいます。自分の個性を生かした幅広い選択ができるというのは、文学部の特徴かもしれません。もちろん、大学のサポート体制もしっかりしていて、1年次からキャリアデザイン・プログラムを展開していますし、就職活動サポートも手厚く実施しています。

キャリアサポートについて教えてください。



■卒業生

就職活動に関してはずいぶんサポートしてもらいました。キャリアセンターが斡旋するインターンシップも活用しましたし、キャリアセンターで模擬面接やエントリーシートの添削もしてもらいました。模擬面接では、なんと本番の面接官と同じ人にやっていただき、当日はまったく緊張せずに面接を受けられました。企業の採用担当者にセミナーの講師として来ていただいたり、たくさんの企業の協力があるの

も、とても心強いサポート体制だと思います。

■大学生

私は、就職活動をはじめたところなのですが、キャリアセンターには毎日のように通っています。過去3年間の先輩たちの就職体験レポートが保管されていて、いまは、それがとても参考になっています。自分が目指そうと思っている会社を受けた人が、この時期なにをしていたのか、どういう状況だったのかということがよくわかりますし、どこに注意をすべきかということも細かく書いてあります。今は、暇さえあればキャリアセンターに行って、先輩方のレポートを読んでいます。

■卒業生

個人面談もやってくれて、いろいろな相談に乗ってくれるのもありがたかったです。

■大学生

個人面談は、予約がすぐ埋まっちゃうほどの人気です。

■卒業生

私は、キャリアセンターにかなり通っていたので、職員の方とも顔見知りになっていて、就職が決まった時には、一緒になって喜んでくれました。とても嬉しかったです。

●5年後に向けて

5年後には皆さん、何をしていますでしょうか？

■大学生

まだ就職活動を始めたばかりで、進路も決まっていらないのですが、人生を楽しめる大人になりたいなあと漠然と思っています。自分の趣味や知的好奇心を追求して人生をとて楽しんでるような人を見ると、それってすごくいいなあと思います。好きなことがやれて、イキイキとしていて、まわりから見ても楽しそうだなって思われる人になれたらって。もちろんそのためには、しっかりと仕事ができなければいけない。大学で学んだことを生かせる仕事に就き、豊かに人生を広げることのできるベースを作ること、それがいまの目標です。

■卒業生

私は、仕事と家庭を両立できる女性になりたい。ですから松田先生には憧れています。仕事も続けていきたいと思いますし、とはいえ家庭も持ちたい。私の母もそうでしたが、仕事もして、家事も育児もしている、そんな人に5年後にはなっていたいと思います。

■先生

研究したいです。今までして来なかったのかと思われるのも困りますが（笑）、5年後も今までと同じように、いやそれ以上に研究活動をしていたいと思います。新部さんの言うように、私は仕事しながら子育てをしてきましたから、これまでは精一杯突っ走って来たようなところがあります。ですが下の子も中学生になって手が離れてきたものですから、自由にできる時間が増えるはずですよ。これまでは泊まりがけで研究に行くのも、合宿に行くのも、簡単にはできなかったわけですが、それができる。ようやく、自分のペースでやりたい研究ができる。思う存分、研究したいと思います。

●高校生へのアドバイス

受験を控えた高校生へアドバイスをお願いします。

■大学生

私は、今から思うと自分で自分の可能性を狭めて考えていたところがあったように思います。たとえば、文系を選択したので数学や理科をやらないから国立は無理だとか、高校1年からちゃんと勉強していないと推薦は無理だなどと、勝手に自分で決めつけてチャレンジもしませんでした。でも、妹が今年受験だったのですが、あっさりと推薦で大学を決めてしまって、意外と可能性は広くあったんだってことがわかった。無理だと決めつける必要はなかったなあと。ですからアドバイスは、自分で可能性を捨ててしまわないこと。視野を広く持って選択して欲しいと思います。

■卒業生

大学選びは、あまりかた苦しく考えない方がいい。元も子もない言い方かもしれませんが、大学選んで一生が決まるわけではありません。どこに入るかよりも、入ってから何をやるかの方が大切。私もそうでしたが、大学に入ってから興味も変わるし、やりたいことも変わる。あまり悩みすぎるのもよくないと思います。

■大学生

よく目標をもって大学選びをすることをすすめる人もいますが、高校生で目標を絞り込むのは難しい。大体夢はひとつと決まっているわけではありません。たくさんの夢を持って、つまり選択肢をたくさんもって、大学に入る方がいいと私は思います。

■先生

中央大学は可能性を広げることができる大学です。学生が自分の興味の変化や広がりに合わせて、幅広い分野を学べる環境がありますから。でも、大学で自分の興味を広げることができるのは、高校生で勉強したベースがあるからだということも忘れないで欲しい。嫌いな科目もあるでしょうし、こんな勉強やって将来役に立つのかと疑問に思うこともあるかもしれません。しかし、無駄な勉強などないのです。数学は苦手だと思っても、論理的思考は大学で必要なだけでなく、社会に出てからも絶対に必要です。勉強なんて社会に出てからは何の役にも立たないなどと言ってしまう大人も中にはいますが、決してそんなことはない、強く言いたいと思います。今は苦しくても、将来必ず役に立つと信じてがんばってほしい。それが、自分自身の将来の可能性を大きく広げるベースとなるのですから。

みなさんは、どんな高校時代を送っていたのですか？

■卒業生

体育祭などのイベントに力を入れていたので、授業中朝練で眠くなるんですよ。で、寝ないために、先生とずっと話をしようと思うような生徒でした。わからないことがあると、すぐに先生に聞いていたものですから、新部のいるクラスはテスト範囲が狭くなるなんて言われて（笑）。中学までは地味で大人しい性格だったのですが、いわゆる高校デビューしたタイプで、ちょっと目立ちたがりの高校生でした。

■大学生

テストでクラス分けされたり、順位が貼り出されるような学校だったので、負けず嫌いな性格の私は、けっこう勉強していたなと思います。学校帰りに友達とどこかに遊びに行ったりとか、そういうことを全くしなかったのも、もう少しやっておけば良かったかなあとも思います。後悔しているわけではないのですが、高校時代にタイムスリップできるとしたらもう少し遊んでもいいんじゃないと自分に言いたい。徒歩で通学していたから、家と自宅を往復するだけで行動範囲がとても狭かった。たまには、友達と一緒に電車に乗って、原宿のようなところに行ったりしてもよかったのではと思います。

■卒業生

私は逆にもうちょっと勉強しておけば良かったかなと。特に英語です。苦手意識を持ちすぎていたように思います。

●大学構内のお気に入りスポット

おすすめスポットを教えてください。



■卒業生

ちょっとした食事ができる場所もあって、きれいで開放的ですね。

■大学生

私は暇があると、よく利用していました。

■先生

キャンパスが広いので、たまり場になる場所が必要なんですよ。そういう意味では、Cスクエアは学生にとっては大切な場所になっているのではないのでしょうか。中央大学の学食は、4階建ての建物すべてが食堂という学食ビルで有名ですが、Cスクエアもエスニックな料理があったりして、人気は高いです。

■卒業生

私は、暇な時間ができた時は、よくメディアラボに行って映画を見てました。映像を自由に視聴できる自習室があるのですが、人気映画なども教材として置いてあって、自由に見られます。もちろん無料で。社会人になると映画を見る時間もなかなかとれなくなりますから、学生時代にたくさん見ておいてよかったなあと思います。

■大学生

図書館もおすすめです。4階建て5層構造の大きな中央図書館もすごいのですが、各学部ごとに専門書を集めた図書室があって、それが便利です。

■卒業生

文学部は、13の専攻ごとに別々の図書室があります。

■先生

授業が行われる教室と同じ建物に、各専攻の図書室があります。近いので見たい時にすぐに行って見られる。私たち教員にとっても手近なところに専門書があるのは、とても便利です。大きい図書館も

いいのですが、少し遠いと面倒くさくなってしまうたり、たくさんの中から探すのが大変だったり、不便を感じることもありますよね。授業でわからないことがあったり、調べたいことがあったりした時に、すぐに行ける図書室があるのは、とてもいい学習環境です。中央大学の一番のおすすめだと、私も思います。

●インタビューに答えてくれた方々



■先生
松田美佐先生



■卒業生
新部真子さん



■大学生
印南夏子さん